



「香害」と「有害化学物質イソシアネートの被害」



強い香りを発する洗剤や柔軟仕上げ剤・芳香剤・消臭スプレーなどの利用が増え、人工香料が、頭痛や吐き気・かゆみの誘発や鼻炎の悪化などを引き起こしています。さらに、香りを長持ちさせるために使われるマイクロカプセルには、毒性が強い化学物質「イソシアネート」が含まれ、健康への影響が懸念されています。

香害・化学物質対策PJ座長 三宅真里(ネット鎌倉)



▲かきたこども&アレルギークリニック院長 角田和彦先生

イソシアネートは身の回りの様々なものに使われています。屋外では、舗装道路・塗料や防水加工・農薬や肥料・車のタイヤなど、屋内では、クッション・マットレス・合板・家具・殺虫剤や消臭剤などです。直接肌に着けるポリウレタン

環境に広がるイソシアネート

イソシアネートは身の回りの様々なものに使われています。屋外では、舗装道路・塗料や防水加工・農薬や肥料・車のタイヤなど、屋内では、クッション・マットレス・合板・家具・殺虫剤や消臭剤などです。直接肌に着けるポリウレタン

香りが広がるしくみ

香りを閉じ込めるマイクロカプセルの壁材はウレタン製が多く、目的ごとに多種類のイソシアネートが使われています。柔軟仕上げ剤付属のキャップ1杯にマイクロカプセル約1億個と言われているが、8割以上は下水に流れますが、残ったものは衣類の乾燥とともに周囲に飛散します。乾燥後は衣類に固着し、着用して衣類をはたくと、香料を包んだマイクロカプセルが破裂して芳香成分をまき散らすと同時に、カプセルに含まれるイソシアネートも揮発・浮遊します。更に破れたカプセルは長く繊維に固着し、香りがなくなっても有害物質は残ります。

角田先生は、広範囲にわたり化学物質の危険性を説かれ、子どもには特に注意が必要で、胎児期から神経・内分泌・免疫に影響すると指摘されました。

香料の中には、アレルギーや喘息を発症・悪化させる物質、発がん性の物質があることが分かっています。加えて、破裂した極小のマイクロカプセル片は、呼吸器や皮膚を通して体の組織に入り込み体内に蓄積されて、別表の様に様々な病状を引き起します。

香料とイソシアネートの健康被害

香料の中には、アレルギーや喘息を発症・悪化させる物質、発がん性の物質があることが分かっています。加えて、破裂した極小のマイクロカプセル片は、呼吸器や皮膚を通して体の組織に入り込み体内に蓄積されて、別表の様に様々な病状を引き起します。

イソシアネートによる症状 (別表)

Table with 2 columns: Symptom (皮膚・粘膜, 目, 呼吸器, その他, 発ガン性) and Description (Contact dermatitis, eye pain, asthma, etc.)

出典 臨床環境 21: 82~94, 2012

規制を急げ

一般の化学物質に比べ、空気中のごく薄い濃度でも呼吸器と中枢神経に炎症を引き起こすイソシアネート。毒性が強く、国際基準の「安全データシート」で「どくろマーク」をつける化学薬品ですが、日本では規制がなく表示もされず、企業の思うままです。

子どもたちは合成洗剤や柔軟仕上げ剤の様々な香りを身にまとい、学校や幼稚園・保育園で香料とマイクロカプセル片が充満している中で過ごしています。成長期にある子どもの健康と命を守るのは大人の責任です。文部科学省が定める「学校環境衛生基準」に示されている揮発性有機化合物6物質への追加指定が急がれます。

幼保無償化の更なる充実を



総務部長 山崎さゆき (大和市民会議/市議)

昨年5月に成立した「改正子ども・子育て支援法」の基本理念には「全ての子どもが健康やかに成長するように支援するもの」と謳われ、2019年10月から幼児教育・保育無償化が実施され、誰もが支払う消費税が財源となつていきます。政府は「子育て世代の負担を減らすことで、保育を必要とする子どもが質の高い教育を受けられる」としています。しかし実際は、所得が高いほど恩恵をこうむる仕組みにより教育格差が生じる可能性や施設の便乗値上げについて対策が取られないまま開始されてしまいました。